



新編 二階

Agate

FD

特別
又6
8490
1848
早稲田大学図書館



No.

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

76
8490
(1848)

云々前提一也ノ下ハ大坂ノ事ハ豫地ニナシ得ん後々大坂迄
ニ仕るハ出陣ルカ平時ノコセクニシテ支那ニシテ入
部ニスルハカキカカ形消極ニ臨リ固チナシニ持
其田一帯ヲ打破シ爲ニ各々ト標竿リテヨリ是ハ精
神ヲ服膺シテ吾軍ノ爲ニ仕ルシラセズ

五、純理ニ脱皮セシムルハ純國ヲ托テは必ス教平ノ善表ニ出
寸ノ善言ニ用ヒリテハ必ス善表ニ出
余は如クあるヲ新術ヲ托テは必ス善表ニ出
コあく如クあるヲ新術ヲ托テは必ス善表ニ出
平の陸軍ニ無形上ノ子ヲ考ヘハ必ス善表ニ出
ハは其ノ端ヲ托テハ必ス善表ニ出

大山石を移シテ大山を作るハ部隊の運搬を
コ大要素の運用を内情ありあるの確信ハ後官
ハ其の運搬の物息を托テハ必ス善表ニ出
其の運用の物息を托テハ必ス善表ニ出
揮ハ其の端ヲ托テハ必ス善表ニ出

七、此の運搬の物息を托テハ必ス善表ニ出
はんとしたのこである

七、此の運搬の物息を托テハ必ス善表ニ出
はんとしたのこである

八、此の運搬の物息を托テハ必ス善表ニ出
はんとしたのこである

九、此の運搬の物息を托テハ必ス善表ニ出
はんとしたのこである

十、此の運搬の物息を托テハ必ス善表ニ出
はんとしたのこである

廿四回(三十一) 続キ

續言の屋高より

三砲も用志を固る工夫

砲台ノ用志を固し工夫を固る形跡ノ為ニ砲台ノ高シク
 力ニ比シテ過大ノ面ヲ設ク而カニ砲ヲ保持セシムル為ニ
 殊ニ鞏固ノ地ニ當リ砲台ノ用志を固し十之九ニ工夫ヲ加ル
 カラス即チ鞏固ノ地ノ地質堅固ニ非テ是レハ其ノ固キ
 たるより此ノ地質堅固ニ射テリテ各面カニ接照シ合フ
 如キ下項ノ固るニ看高ヨリ所トス
 今此ノ陣地ニ於テ砲台ヲ一隊大砲ニ今属シ合ハセリ
 攻撃ノ場合に此ノ上トシテ我々固ヨリ堅固トシテ御手掛カケシ
 合フニ此ノ固るニ看高ヨリ今属スルニ可ト云ハ又此ノ固るニ
 予ニ防者トシテ外砲台ヲ移シ来ル我々此ノ砲台ノ集積後
 合フニ過シテ過高トシテ砲台トシテ固るニ大體ノ砲台ヲ一階
 ノ下ニ固リテ有利ナリトス

四二日夕國介子來着ノ知事御方ノ使用ノ方

付尋居隊ノ使用無難作ト云ノ事ハ此ノ固キノ爲ニ
 原居ノ二日夕ノ女年ノ境處ニ想知ルニ此ノ固キノ爲ニ
 即チ此ノ固キノ爲ニ

● 伊予
我々も
河内
直ぐ
中山
より

るにト長谷川之渡也之殊に故に依りてナラハ地方
育 領 長谷川之渡也之殊に故に依りてナラハ地方
ヤ毛 國 領 長谷川之渡也之殊に故に依りてナラハ地方
近 之 進 長谷川之渡也之殊に故に依りてナラハ地方
新 川 長谷川之渡也之殊に故に依りてナラハ地方
一 収 長谷川之渡也之殊に故に依りてナラハ地方
伊 毛 長谷川之渡也之殊に故に依りてナラハ地方
備 せ 長谷川之渡也之殊に故に依りてナラハ地方
是 長谷川之渡也之殊に故に依りてナラハ地方
十 日 長谷川之渡也之殊に故に依りてナラハ地方
五 敵 長谷川之渡也之殊に故に依りてナラハ地方
軍 長谷川之渡也之殊に故に依りてナラハ地方
上 長谷川之渡也之殊に故に依りてナラハ地方
時 長谷川之渡也之殊に故に依りてナラハ地方
敵 長谷川之渡也之殊に故に依りてナラハ地方
的 長谷川之渡也之殊に故に依りてナラハ地方
い 長谷川之渡也之殊に故に依りてナラハ地方
子 長谷川之渡也之殊に故に依りてナラハ地方

ル 直 長谷川之渡也之殊に故に依りてナラハ地方
あ 長谷川之渡也之殊に故に依りてナラハ地方
地 長谷川之渡也之殊に故に依りてナラハ地方
六 長谷川之渡也之殊に故に依りてナラハ地方
屋 長谷川之渡也之殊に故に依りてナラハ地方
二 長谷川之渡也之殊に故に依りてナラハ地方
割 長谷川之渡也之殊に故に依りてナラハ地方
二 長谷川之渡也之殊に故に依りてナラハ地方

其 即 席 研 究 凡

肉 長谷川之渡也之殊に故に依りてナラハ地方
給 長谷川之渡也之殊に故に依りてナラハ地方
屋 長谷川之渡也之殊に故に依りてナラハ地方
A 長谷川之渡也之殊に故に依りてナラハ地方

第五回 (十一月廿六日)
I. 右軍提督 喜見 文徳
II. 陸軍大臣 陸奥 宗光
III. 陸軍少将 奥平 昌高
IV. 陸軍少将 奥平 昌高
V. 陸軍少将 奥平 昌高

耳、系、事、

一、土、政、時、の、面

概、一、こ、甚、尾

中、身、地、区、

二、改、政、の、時、勢、の、時、勢

七、日、掛、曉

三、改、政、の、時、勢、の、時、勢

四、改、政、の、時、勢、の、時、勢

五、改、政、の、時、勢、の、時、勢

六、改、政、の、時、勢、の、時、勢

七、改、政、の、時、勢、の、時、勢

八、改、政、の、時、勢、の、時、勢

九、改、政、の、時、勢、の、時、勢

十、改、政、の、時、勢、の、時、勢

十一、改、政、の、時、勢、の、時、勢

十二、改、政、の、時、勢、の、時、勢

小、部、隊、に、関、し、て

一、小、部、隊、に、関、し、て

二、小、部、隊、に、関、し、て

三、小、部、隊、に、関、し、て

四、小、部、隊、に、関、し、て

度、附、近、の、地、区、に、関、し、て

井、田、の、地、区、に、関、し、て

長、島、の、地、区、に、関、し、て

三、改、政、の、時、勢、の、時、勢

四、改、政、の、時、勢、の、時、勢

五、改、政、の、時、勢、の、時、勢

六、改、政、の、時、勢、の、時、勢

七、改、政、の、時、勢、の、時、勢

八、改、政、の、時、勢、の、時、勢

九、改、政、の、時、勢、の、時、勢

十、改、政、の、時、勢、の、時、勢

十一、改、政、の、時、勢、の、時、勢

十二、改、政、の、時、勢、の、時、勢

十三、改、政、の、時、勢、の、時、勢

十四、改、政、の、時、勢、の、時、勢

十五、改、政、の、時、勢、の、時、勢

十六、改、政、の、時、勢、の、時、勢

十七、改、政、の、時、勢、の、時、勢

十八、改、政、の、時、勢、の、時、勢

十九、改、政、の、時、勢、の、時、勢

二十、改、政、の、時、勢、の、時、勢

二十一、改、政、の、時、勢、の、時、勢

二十二、改、政、の、時、勢、の、時、勢

二十三、改、政、の、時、勢、の、時、勢

二十四、改、政、の、時、勢、の、時、勢

二十五、改、政、の、時、勢、の、時、勢

度、附、近、の、地、区、に、関、し、て
井、田、の、地、区、に、関、し、て
長、島、の、地、区、に、関、し、て
三、改、政、の、時、勢、の、時、勢
四、改、政、の、時、勢、の、時、勢
五、改、政、の、時、勢、の、時、勢
六、改、政、の、時、勢、の、時、勢
七、改、政、の、時、勢、の、時、勢
八、改、政、の、時、勢、の、時、勢
九、改、政、の、時、勢、の、時、勢
十、改、政、の、時、勢、の、時、勢
十一、改、政、の、時、勢、の、時、勢
十二、改、政、の、時、勢、の、時、勢
十三、改、政、の、時、勢、の、時、勢
十四、改、政、の、時、勢、の、時、勢
十五、改、政、の、時、勢、の、時、勢
十六、改、政、の、時、勢、の、時、勢
十七、改、政、の、時、勢、の、時、勢
十八、改、政、の、時、勢、の、時、勢
十九、改、政、の、時、勢、の、時、勢
二十、改、政、の、時、勢、の、時、勢
二十一、改、政、の、時、勢、の、時、勢
二十二、改、政、の、時、勢、の、時、勢
二十三、改、政、の、時、勢、の、時、勢
二十四、改、政、の、時、勢、の、時、勢
二十五、改、政、の、時、勢、の、時、勢

了と云え推しの若干あるが此即時を遅くすると掛け物は
 ありぬ、推言するは後下の預後は後後兵も大東路の
 陣列を以て三万懐平地の進出するを要する、付け
 松子向して出ると寸寸たものをす時たりとも時掛け近き地を
 子停止せしめ遅くしたとは宜しからず、草木高直り敷か仕
 掛け等事より以上は来者を一掃するの出来次第に
 寸刻の際も懸るす一直ちの攻めたりするところか必死である
 八日早は敵の考慮の掘土の余地を懸るべしと云ふも、七日
 ありは多少少軍兵の進出の早か否を要するところあるは
 ことしと敵の寸刻の際も懸るべしと云ふ敵に於て是れ其の
 能る破りたりあるを以て高きと云へる、せり果てしなく
 の日中より2030等をとりおせしはなるものか又思ふは
 我企圖の秘密に通過の方策を遺すところか好意もある、
 (大要)

(1) 主攻撃の趣向方面より三を要するは其の白草おの刻る

1. 主力を大垣方面地区に使用するもの
2. 主力を大垣及び其南方面に近く使用するもの
3. 主力を大垣方面より清水川の地区に使用するもの

4. 主力を他時より清水河川沿いの山地等に使用するもの
 若干を保留とのこと自身を圖るに留意せしむ

上の各節一なる攻めり移り形様の撥定以外に本陣
 類解決の物三箇を要するは二箇を網の目
 攻めり準備の完不一時に改定は其地の保持一
 二箇の討伐九八を討撃を要する

敵は小隊ある優越を以て本陣地を接近して打ち、
 約千の銃は知り打ちし程のころ一返は是の近所の
 うち打ちすとすは其改定一掃を極力あるものと判断せぬは
 りぬとるとすは其改定一掃を極力あるものと判断せぬは
 付け一めたのけを以て掃定ある一掃して打ちすとすは其改定一掃を
 いかる半位を以て掃定ある一掃して打ちすとすは其改定一掃を
 の要ある近く掃定するのちめぬはありぬ掃定ある一掃して打ちとすは其改定一掃を
 申すは七日程度は八日朝は掃定ある一掃して打ちとすは其改定一掃を
 とすは現に其地の保持一掃して打ちとすは其改定一掃を
 とすは現に其地の保持一掃して打ちとすは其改定一掃を
 か或は大陣をあり是掃定ある一掃して打ちとすは其改定一掃を

と伝

以上の確信より、以て此の種族の所動を主は西面の東進
知す。其の月日は決定し、其の他一級子陸軍に
送くべき要する件にの如し

一級の子表を以てその意に

級の子表を以てその意に印の一太夫を以てその意に
之を以て其の意に印の一太夫を以てその意に
有るを以て其の意に印の一太夫を以てその意に
深子加入するを以て其の意に印の一太夫を以てその意に
地子加入するを以て其の意に印の一太夫を以てその意に
やばり申すを以て其の意に印の一太夫を以てその意に
段上重井 高田道止止め置くとしは假令級
子位置を以て其の意に印の一太夫を以てその意に
資料を以て其の意に印の一太夫を以てその意に
有るを以て其の意に印の一太夫を以てその意に

マシンや列
車記号表
送付の注意
とある

以下級の子表を以て其の意に印の一太夫を以てその意に
の意を以て其の意に印の一太夫を以てその意に

せぬはき、女は迅速のさ、其の意に印の一太夫を以てその意に
色や子見是、其の意に印の一太夫を以てその意に
を以て其の意に印の一太夫を以てその意に
北名は、其の意に印の一太夫を以てその意に
高田道止、其の意に印の一太夫を以てその意に
あり、其の意に印の一太夫を以てその意に
付、其の意に印の一太夫を以てその意に
の、其の意に印の一太夫を以てその意に
よ、其の意に印の一太夫を以てその意に
二、其の意に印の一太夫を以てその意に
後、其の意に印の一太夫を以てその意に
一、其の意に印の一太夫を以てその意に
カ、其の意に印の一太夫を以てその意に
と、其の意に印の一太夫を以てその意に

1200 果樹等と
支代の事とあ

地産作物の未だの方面の効力、如何に宜し
又戦後の角野は多量の水を植傷療養の左き
云限り、は可成り米より其方面に水と移りて
地形に情を精通せしものと違ふて其物名と
を辨せしむる分宜し、此に於て其物を
下著しくたり、或は在り移りせしむるは宜し
即ち100KB140を基礎として後より米に
降入する其揮下し、米の戦時地域に著し
と此のさる如くする看さるる必要あり

三、戦後老若の戦後騎兵を以て其
戦後老若の戦後騎兵を以て其
其の如くは作物あり、看さるるは宜し、此に
一、戦後の如く、其を要するは宜し、此に
即ち一戦を以て、其の戦後と其を以て其
此は亦、其の戦後、其の戦後、其の戦後、
其と其の如く、其の戦後、其の戦後、其の戦後、
其の戦後、其の戦後、其の戦後、其の戦後、

其の戦後、其の戦後、其の戦後、其の戦後、
其の戦後、其の戦後、其の戦後、其の戦後、

四、操陣校下の図一

操陣校下の位置、其の戦後、其の戦後、
其の戦後、其の戦後、其の戦後、其の戦後、
其の戦後、其の戦後、其の戦後、其の戦後、

五、戦後の整理と園一

戦後の整理と園一、其の戦後、其の戦後、
其の戦後、其の戦後、其の戦後、其の戦後、
其の戦後、其の戦後、其の戦後、其の戦後、

六、作物の形状と力

作物の形状と力、其の戦後、其の戦後、
其の戦後、其の戦後、其の戦後、其の戦後、
其の戦後、其の戦後、其の戦後、其の戦後、

け芋の盛る所はともあらずに
 八十と云ふは味——と掛か、
 七十四力至
 必再とある。

第六圖（一月六日）

I. 即席研定

右側支隊の五の各段の所部

細の区部をとり、平河を其の区部の

の上

（平河を其の区部の

II. 濠洋一及手懸掘り

III. 階段及岡既交付

IV. 濠洋

今圖の作事は極く軍簡あり、地ろく、活官の答事は区々別
 き之を別すとは二十余程ともあるが、芋佃々の地、地洋する
 は、松の道と云ふ之と松地——と云ふところあり

一、木曾川

松地——と云ふ、長良川或は

岡の標

二、木曾川、右岸にあり、そのまは、尾三子、後、

近きは、津島、又は、松地、附近あり、松地、或は、松地、

松地、或は、松地、附近あり、松地、或は、松地、

折山から右岸の船を接したる時(一)

No.

行ける海津定
國を放棄せし
る限りは

この区海に國領を規
定すべし
一、國一森山一公海
中山一公海
一、中山一公海
一、中山一公海
一、中山一公海
一、中山一公海

△
の諸道は向ある
一、中山一公海
一、中山一公海
一、中山一公海
一、中山一公海
一、中山一公海
一、中山一公海

折山から右岸の船を接したる時(一)
一、中山一公海
一、中山一公海
一、中山一公海
一、中山一公海
一、中山一公海
一、中山一公海

折山から右岸の船を接したる時(一)
一、中山一公海
一、中山一公海
一、中山一公海
一、中山一公海
一、中山一公海
一、中山一公海

No.

折山から右岸の船を接したる時(一)
一、中山一公海
一、中山一公海
一、中山一公海
一、中山一公海
一、中山一公海
一、中山一公海

假し必要とする時(一)

足原仰長が遺言「足原」として定りたるものあり
 一甲の新田足原の遺言すると其の遺言に「足原」の字は「遺言」
 の字も「遺言」の字ありとの遺言を定りたるものありしは遺言の遺言は
 足原の遺言を定りたるものありしは遺言の遺言は「足原」の字は「遺言」
 の字も「遺言」の字ありとの遺言を定りたるものありしは遺言の遺言は
 足原の遺言を定りたるものありしは遺言の遺言は「足原」の字は「遺言」
 の字も「遺言」の字ありとの遺言を定りたるものありしは遺言の遺言は

遺言の遺言の遺言の遺言



夫と故に叙は全力を奉りて申仙道方面へして東海遠方面へして
 下のちとを承れる又九の一二五五の四五と其の叙する所のの
 面へ通りし七背後の通出上へ支障あり端のある即ち七を
 州へ配し之見るとは西方面を以て兵力破遣の關係を以て
 の端を以てする
 中の一三三四五
 東五四三二一〇
 斯の叙は之の停るべきせんとする諸官の叙の置は其の差別
 ありしに遺言目録も区々より其の叙を以て其の叙を以てする

〇
 リ
 其
 の
 叙
 を
 以
 て
 する

生するに於てある。即ち北岸の事ありして其の叙を以てする
 の叙を以てするは其の叙を以てするは其の叙を以てするは其の叙
 を以てするは其の叙を以てするは其の叙を以てするは其の叙を以て
 するは其の叙を以てするは其の叙を以てするは其の叙を以てするは
 其の叙を以てするは其の叙を以てするは其の叙を以てするは其の叙
 を以てするは其の叙を以てするは其の叙を以てするは其の叙を以て
 するは其の叙を以てするは其の叙を以てするは其の叙を以てするは
 其の叙を以てするは其の叙を以てするは其の叙を以てするは其の叙
 を以てするは其の叙を以てするは其の叙を以てするは其の叙を以て
 するは其の叙を以てするは其の叙を以てするは其の叙を以てするは

豊の目的あり限り本常川大橋等を近く留め一旦西岸を跨りし止まる所は稀にありある
 以上の如く海軍は密にあり
 幼弱の中仙臺東海辺方面に侵入するもあるなりと云ふは大山附
 近を包圍しよとして其上に橋を架ける本常川海河兵の侵入を考へ
 ても此の主力は各屯兵平地より出るものと考へるはさきよりあり
 其際軍の洋抽きよりには内未決として將來の解決を待たねばならぬ
 全地が多少の森林を有するは其計け通し阻礙を生ずる公
 認の多きを以て本常川の侵入を遠く其意を予備し之を
 するの必要を考へる。

本常川大橋を遠く日本常川大橋より存留すべし此の化
 華者よりして遠く目標を為すべし一若急一カ取一
 大山附近の海軍又井屋若石境に止むるは中區軍軍より
 軍一しく一大地障の海軍或中區軍推進力の最大新
 龍近押付けたる軍一着意の海軍は定せしむるべし
 予備に

工部局事務

陸設

陸設

五日午後四時 龍田師子ノ前(即ち龍田寺) 且其地は海軍の
 駐屯地一地方工部局(中區)に其地を管轄する所東地
 海軍と入同附近にありて其地を管轄する所東地

一、其地を管轄する所東地(中區)に其地を管轄する所東地
 海軍と入同附近にありて其地を管轄する所東地

二、其地を管轄する所東地(中區)に其地を管轄する所東地
 海軍と入同附近にありて其地を管轄する所東地

三、其地を管轄する所東地(中區)に其地を管轄する所東地
 海軍と入同附近にありて其地を管轄する所東地

四、其地を管轄する所東地(中區)に其地を管轄する所東地
 海軍と入同附近にありて其地を管轄する所東地

五、其地を管轄する所東地(中區)に其地を管轄する所東地
 海軍と入同附近にありて其地を管轄する所東地

肉改
右側支隊より如何に夜路を遠くせしむ
本陣

本陣川右岸に陣取りて陣據り候所にて拵置候に於て本陣より大陣を揮付
附近に拵置候に於て天候ト共ニ射撃ノ間候に三ノ時ニ拵置材料
一隊又拵置候に於て本陣より軍馬ノ厚州方面迄西方地区に上
陸せしむに拵置候に於て

行軍

シラ直り

シラ直り

一、前日(五)日中候に於て揮付附近に於て拵置候に於て拵置材料ノ拵置

二、同日午後五時大陣より本陣に於て拵置候に於て拵置材料

三、長島地方地区に於て拵置候に於て拵置材料ノ拵置

四、拵置候に於て拵置材料

五、同日没候地方舟又拵置候に於て拵置材料ノ拵置

六、は、五、日中候(五)日中候に於て拵置候に於て拵置材料

七、同日没候地方舟又拵置候に於て拵置材料ノ拵置

八、同日没候地方舟又拵置候に於て拵置材料ノ拵置

九、同日没候地方舟又拵置候に於て拵置材料ノ拵置

地計 800
7146.0
920
160
960
△(正片)

五、陸軍に拵置候に於て拵置材料ノ拵置

情況

一、六日夕八時半前、本陣より本陣に於て拵置材料ノ拵置

二、同日没候地方舟又拵置候に於て拵置材料ノ拵置

三、同日没候地方舟又拵置候に於て拵置材料ノ拵置

四、同日没候地方舟又拵置候に於て拵置材料ノ拵置

五、同日没候地方舟又拵置候に於て拵置材料ノ拵置

六、同日没候地方舟又拵置候に於て拵置材料ノ拵置

七、同日没候地方舟又拵置候に於て拵置材料ノ拵置

八、同日没候地方舟又拵置候に於て拵置材料ノ拵置

九、同日没候地方舟又拵置候に於て拵置材料ノ拵置

十、同日没候地方舟又拵置候に於て拵置材料ノ拵置

十一、同日没候地方舟又拵置候に於て拵置材料ノ拵置

十二、同日没候地方舟又拵置候に於て拵置材料ノ拵置

十三、同日没候地方舟又拵置候に於て拵置材料ノ拵置

十四、同日没候地方舟又拵置候に於て拵置材料ノ拵置

十五、同日没候地方舟又拵置候に於て拵置材料ノ拵置

十六、同日没候地方舟又拵置候に於て拵置材料ノ拵置

十七、同日没候地方舟又拵置候に於て拵置材料ノ拵置

十八、同日没候地方舟又拵置候に於て拵置材料ノ拵置

十九、同日没候地方舟又拵置候に於て拵置材料ノ拵置

二十、同日没候地方舟又拵置候に於て拵置材料ノ拵置

△
西軍本陣
河川右岸
河川左岸
河川中流
河川下流
河川上流
河川河口
河川入江
河川出江
河川支流
河川干流
河川主流
河川副流
河川支流
河川干流
河川主流
河川副流

△

三、同日没候地方舟又拵置候に於て拵置材料ノ拵置

四、同日没候地方舟又拵置候に於て拵置材料ノ拵置

五、同日没候地方舟又拵置候に於て拵置材料ノ拵置

六、同日没候地方舟又拵置候に於て拵置材料ノ拵置

七、同日没候地方舟又拵置候に於て拵置材料ノ拵置

八、同日没候地方舟又拵置候に於て拵置材料ノ拵置

九、同日没候地方舟又拵置候に於て拵置材料ノ拵置

十、同日没候地方舟又拵置候に於て拵置材料ノ拵置

特

手記
手記
手記
手記

十

水足
水足
水足
水足

大島

一、山崎方面
二、山崎方面
三、山崎方面
四、山崎方面

二、山崎方面
三、山崎方面
四、山崎方面

△東端 坂元西端 西端の地形

三、山崎方面の地形
四、山崎方面の地形
五、山崎方面の地形
六、山崎方面の地形
七、山崎方面の地形
八、山崎方面の地形
九、山崎方面の地形
十、山崎方面の地形

四
四/A
四/B

浜松のり
晴

一、山崎方面の地形
二、山崎方面の地形
三、山崎方面の地形
四、山崎方面の地形
五、山崎方面の地形
六、山崎方面の地形
七、山崎方面の地形
八、山崎方面の地形
九、山崎方面の地形
十、山崎方面の地形

山崎
山崎
山崎
山崎

山崎
山崎
山崎
山崎

四、山崎方面の地形
五、山崎方面の地形
六、山崎方面の地形
七、山崎方面の地形
八、山崎方面の地形
九、山崎方面の地形
十、山崎方面の地形

山崎方面の地形
山崎方面の地形
山崎方面の地形
山崎方面の地形

山崎
山崎
山崎
山崎

地形の形

一、地形の形、地形をいふに際して地形力の方針は、
 二、地形の形、地形をいふに際して地形力の方針は、
 三、地形の形、地形をいふに際して地形力の方針は、
 四、地形の形、地形をいふに際して地形力の方針は、
 五、地形の形、地形をいふに際して地形力の方針は、
 六、地形の形、地形をいふに際して地形力の方針は、
 七、地形の形、地形をいふに際して地形力の方針は、
 八、地形の形、地形をいふに際して地形力の方針は、
 九、地形の形、地形をいふに際して地形力の方針は、
 十、地形の形、地形をいふに際して地形力の方針は、

地形の形

一月十四日 和國 渡洋

諸官、考案、大要、
平らしむる地

一、概、三木、中心、
概、三木、中心、
概、三木、中心、

一、概、三木、中心、
概、三木、中心、

一、概、三木、中心、
概、三木、中心、

一、概、三木、中心、
概、三木、中心、

山、至り、振、止、す

一、概、三木、中心、
概、三木、中心、

一、概、三木、中心、
概、三木、中心、

一、概、三木、中心、
概、三木、中心、

一、概、三木、中心、
概、三木、中心、

博、修、員、
博、修、員、

一、概、三木、中心、
概、三木、中心、

一、概、三木、中心、
概、三木、中心、

一、概、三木、中心、
概、三木、中心、

一、概、三木、中心、
概、三木、中心、

年、修、務、
年、修、務、

二、年、今、
二、年、今、

一、概、三木、中心、
概、三木、中心、

一、概、三木、中心、
概、三木、中心、

一、概、三木、中心、
概、三木、中心、

一、概、三木、中心、
概、三木、中心、

一、概、三木、中心、
概、三木、中心、

一、概、三木、中心、
概、三木、中心、

一、概、三木、中心、
概、三木、中心、

一、概、三木、中心、
概、三木、中心、

一、概、三木、中心、
概、三木、中心、

一、概、三木、中心、
概、三木、中心、

一、概、三木、中心、
概、三木、中心、

一、概、三木、中心、
概、三木、中心、

一、概、三木、中心、
概、三木、中心、

一、概、三木、中心、
概、三木、中心、

白瑞一吉五打果一草工瑞

二 叶多音子张

叶多音子张

一右腿林之物y张音为子地y博y子y修y

叶多音子张音为子地y博y子y修y
叶多音子张音为子地y博y子y修y
叶多音子张音为子地y博y子y修y
叶多音子张音为子地y博y子y修y

一 三本道に於ては

二 三本道の
三 三本道の
四 三本道の
五 三本道の
六 三本道の
七 三本道の
八 三本道の
九 三本道の
十 三本道の
十一 三本道の
十二 三本道の
十三 三本道の
十四 三本道の
十五 三本道の
十六 三本道の
十七 三本道の
十八 三本道の
十九 三本道の
二十 三本道の
二十一 三本道の
二十二 三本道の
二十三 三本道の
二十四 三本道の
二十五 三本道の
二十六 三本道の
二十七 三本道の
二十八 三本道の
二十九 三本道の
三十 三本道の
三十一 三本道の
三十二 三本道の
三十三 三本道の
三十四 三本道の
三十五 三本道の
三十六 三本道の
三十七 三本道の
三十八 三本道の
三十九 三本道の
四十 三本道の
四十一 三本道の
四十二 三本道の
四十三 三本道の
四十四 三本道の
四十五 三本道の
四十六 三本道の
四十七 三本道の
四十八 三本道の
四十九 三本道の
五十 三本道の
五十一 三本道の
五十二 三本道の
五十三 三本道の
五十四 三本道の
五十五 三本道の
五十六 三本道の
五十七 三本道の
五十八 三本道の
五十九 三本道の
六十 三本道の
六十一 三本道の
六十二 三本道の
六十三 三本道の
六十四 三本道の
六十五 三本道の
六十六 三本道の
六十七 三本道の
六十八 三本道の
六十九 三本道の
七十 三本道の
七十一 三本道の
七十二 三本道の
七十三 三本道の
七十四 三本道の
七十五 三本道の
七十六 三本道の
七十七 三本道の
七十八 三本道の
七十九 三本道の
八十 三本道の
八十一 三本道の
八十二 三本道の
八十三 三本道の
八十四 三本道の
八十五 三本道の
八十六 三本道の
八十七 三本道の
八十八 三本道の
八十九 三本道の
九十 三本道の
九十一 三本道の
九十二 三本道の
九十三 三本道の
九十四 三本道の
九十五 三本道の
九十六 三本道の
九十七 三本道の
九十八 三本道の
九十九 三本道の
一百 三本道の

一 山陽道(北側)は
二 山陽道(南側)は
三 山陽道(東側)は
四 山陽道(西側)は
五 山陽道(北東)は
六 山陽道(北西)は
七 山陽道(南東)は
八 山陽道(南西)は
九 山陽道(東北)は
十 山陽道(東南)は
十一 山陽道(東南)は
十二 山陽道(西南)は
十三 山陽道(西東)は
十四 山陽道(北南)は
十五 山陽道(南北)は
十六 山陽道(東西)は
十七 山陽道(西東)は
十八 山陽道(北南)は
十九 山陽道(南北)は
二十 山陽道(東西)は
二十一 山陽道(西東)は
二十二 山陽道(北南)は
二十三 山陽道(南北)は
二十四 山陽道(東西)は
二十五 山陽道(西東)は
二十六 山陽道(北南)は
二十七 山陽道(南北)は
二十八 山陽道(東西)は
二十九 山陽道(西東)は
三十 山陽道(北南)は
三十一 山陽道(南北)は
三十二 山陽道(東西)は
三十三 山陽道(西東)は
三十四 山陽道(北南)は
三十五 山陽道(南北)は
三十六 山陽道(東西)は
三十七 山陽道(西東)は
三十八 山陽道(北南)は
三十九 山陽道(南北)は
四十 山陽道(東西)は
四十一 山陽道(西東)は
四十二 山陽道(北南)は
四十三 山陽道(南北)は
四十四 山陽道(東西)は
四十五 山陽道(西東)は
四十六 山陽道(北南)は
四十七 山陽道(南北)は
四十八 山陽道(東西)は
四十九 山陽道(西東)は
五十 山陽道(北南)は
五十一 山陽道(南北)は
五十二 山陽道(東西)は
五十三 山陽道(西東)は
五十四 山陽道(北南)は
五十五 山陽道(南北)は
五十六 山陽道(東西)は
五十七 山陽道(西東)は
五十八 山陽道(北南)は
五十九 山陽道(南北)は
六十 山陽道(東西)は
六十一 山陽道(西東)は
六十二 山陽道(北南)は
六十三 山陽道(南北)は
六十四 山陽道(東西)は
六十五 山陽道(西東)は
六十六 山陽道(北南)は
六十七 山陽道(南北)は
六十八 山陽道(東西)は
六十九 山陽道(西東)は
七十 山陽道(北南)は
七十一 山陽道(南北)は
七十二 山陽道(東西)は
七十三 山陽道(西東)は
七十四 山陽道(北南)は
七十五 山陽道(南北)は
七十六 山陽道(東西)は
七十七 山陽道(西東)は
七十八 山陽道(北南)は
七十九 山陽道(南北)は
八十 山陽道(東西)は
八十一 山陽道(西東)は
八十二 山陽道(北南)は
八十三 山陽道(南北)は
八十四 山陽道(東西)は
八十五 山陽道(西東)は
八十六 山陽道(北南)は
八十七 山陽道(南北)は
八十八 山陽道(東西)は
八十九 山陽道(西東)は
九十 山陽道(北南)は
九十一 山陽道(南北)は
九十二 山陽道(東西)は
九十三 山陽道(西東)は
九十四 山陽道(北南)は
九十五 山陽道(南北)は
九十六 山陽道(東西)は
九十七 山陽道(西東)は
九十八 山陽道(北南)は
九十九 山陽道(南北)は
一百 山陽道(東西)は

三 備前 本多 二七

No.

No.

以下全て
白紙

